

熊中

クールないかした生徒
 マナーを守る(礼儀をわきまえた)生徒
 ニーズがある(必要とされる)生徒
 シーンを創れる場面を演出できる生徒

校長室だより
 第15号
 北九州市立熊西中学校
 校長 江口 恵子

トルコとの友好を深めました

2015年(平成27年)12月9日(水曜日)

記

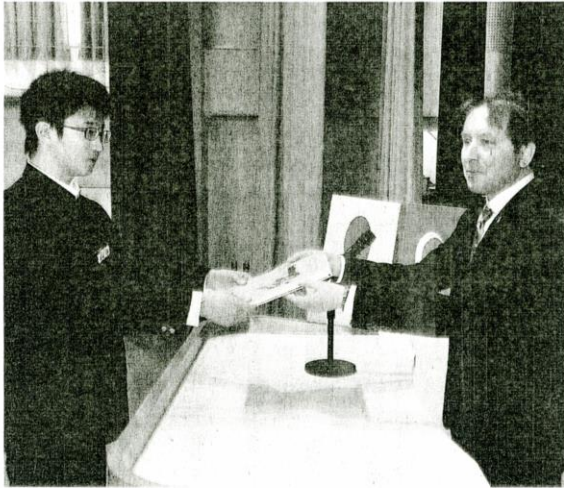
室

第

号

トルコ地震救援活動中に犠牲

成富君に本を手渡すムラートさん(右)



2011年のトルコ東部地震の救援活動中に亡くなった大分市出身の宮崎淳さん(当時41歳)をたたえる追悼本62冊を、福岡市在住のトルコ人、エンシジ・ムラートさん(39)が北九州市に寄贈した。本は市内の全中学校に配布される。トルコ政府の協力を得て、九州内の中学校などに計600冊を寄贈したムラートさんは「多くの子どもたちに宮崎さんの功績を知ってもらい、両国の友好を深めたい」と話している。

(篠原太)

宮崎さん追悼本を寄贈

北九州市に 福岡在住ムラートさん「友好深めたい」



宮崎さんの銅像制作の様子などを載せた追悼本

追悼本はトルコの大学教授がまとめ、トルコ政府が12年に発行した。A4判の122ページ。トルコ語と日本語で宮崎さんの生い立ちやトルコでの支援

活動の様子などを写真とともに伝え、エルドアン大統領らの追悼文も載せている。ムラートさんはトルコの伝統的な織物を輸入販売する会社を経営。地震後、宮崎さんの母親と会ったことがあり、「日本の子どもたちに宮崎さんの活動を知ってもらいたい」とトルコ政府などに働きかけ、13年から福岡、熊本、鹿児島などの学校や図書館に本を送り続けている。北九州市への寄贈で600冊を配り終えたという。

11年10月にトルコで600人以上が死亡する地震が起きた後、宮崎さんはNPO法人「難民を助ける会」(東京)の一員として現地入り。救援活動に当たったが、翌月の余震で宿泊先のホテルが倒壊し、命を落とした。宮崎さんの献身的な活動をたたえるため、トルコでは公園に宮崎さんの名前が付けられたり、銅像が建てられたりしている。

十二月八日(火)、福岡市在住のトルコ人、エンシジ・ムラートさんが来校され、四年前の大地震で、救援活動中に亡くなられた

宮崎淳さんの追悼本を寄贈していただきました。トルコと日本とは、今から百二十五年前に起きた海難事故をきっかけに、

友好関係が続いています。東日本大震災では、各国の救助チームが駆けつける中で、どこよりも長期に渡って活動にあたりてくれました。また、一

ムラートさんは8日、市立熊西中(江口恵子校長、327人)を訪ね、体育館で全校生徒に両国の友好の歴史や宮崎さんの活動について説明。「宮崎さんは勇気をもって他国で人を助け、素晴らしいことをした。両国の深い絆がこれからも続いてほしい」と呼びかけ、生徒会長の成富匡啓君(2年)に本を手渡した。生徒会副会長の鈴木華梨さん(同)は「両国の友情が続くよう、私たちが力を尽くしていきたい」と話していた。

二五周年という節目の年に、国民の八三・二%が日本との関係を友好関係にあると回答したそうです。いただいた本が、トルコとの友好親善と、世界の平和の礎となるよう願っています。

今年の漢字は「安」



十二月十五日、京都の清水寺で、今年の世相を

表す漢字は「安」と発表されました。安非法制、自然災害、テロへの不安などが背景にあるといえます。本校は、今後も保護者や地域の皆様のご協力を得て、安全・安心な学校にしていきたいと思えます。